

高品質米安定生産に向けた健苗育成のスタート



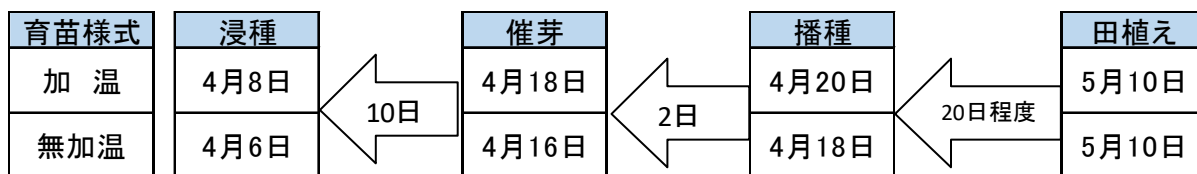
～稚苗では 20 日間程度の育苗日数となるよう
田植え時期に合わせた適期播種を実施しましょう。～

1. 作業計画

- 播種時期が早く、育苗日数が長くなると老化苗となり、本田での初期生育が著しく遅れます。
- 播種日は田植日から、育苗日数を遡って決定しましょう。

《作業日程例》

コシヒカリ 5月10日田植えの場合



2. 塩水選

- 充実が良好で、病害のない種子を選別するために塩水選をおこないましょう。
- 塩水選後はよく水洗いしましょう。

区分	比重	食塩の量
うるち	1.13	1.9 kg
もち	1.08	1.1 kg

3. 種子消毒

区分	資材名	処理方法	希釈倍数		
			乾物重	水量	薬量
環境保全型	エコホープDJ (微生物農薬)	浸種前・催芽前 ※催芽時 200倍 24～48時間浸漬	1kg	2.5L	12.5g
			20kg	50L	250g
	タフブロック (微生物農薬)	催芽前 ※催芽時 200倍 24～48時間浸漬	1kg	2.5L	12.5g
			20kg	50L	250g
	MR-X	100倍 48時間浸漬	1kg	2.5L	25cc
			20kg	50L	500cc
湿紛衣	タフブロック	種子重量の4%:種籾1Kgに対し薬剤40g(浸種前)			
温湯浸法	60℃の温湯に10分間浸漬、終了後冷水につけて冷やし水切り後乾燥する				
慣行栽培	浸漬	テクリードCフロアブル 200倍 24時間浸漬	1kg	2.5L	12.5cc
			20kg	50L	250g
	湿紛衣	モミガードC水和剤	乾籾重の0.5%		

※「エコホープDJ」を使用した場合、育苗期間中、覆土表面等に「青かび」が見られる場合がありますが、これはエコホープDJの菌であるため、その後の苗の生育には影響ありません。

【消毒薬剤の効果的な使い方】

【テクリードCフロアブル・モミガードC】

- ・これらを使用し浸種前に種子消毒した場合は、水の更新は最初の4日間は消毒効果を高めるため取り替えず、その後2日1回の割合で水を更新しましょう。
- ・また籾の酸素吸収を均一にするため袋の上下を入れ替えましょう。

【エコホープDJ・タフブロック】

- ・効果を安定させるための上手な使い方は、催芽前処理をおすすめします。
- ・特に最近発生が目立つ「ばか苗病」対策には必須です。
- ・催芽機の水温を調節し200倍希釈で使用します。種籾をゆすり籾袋の中まで薬液が浸透するようにして24時間浸漬しましょう。
- ・反復使用はしないで下さい。

【温湯消毒】

- ・処理温度は60℃。殺菌時間は10分をめやすに実施してください。
- ・1袋当たりの種籾の量は多くせず、適量(袋の1/2程度)入れましょう。

4. 浸種 ～令和2年用コシヒカリ並びに新之助種子の休眠性は「深い」と推定されます。～

- 発芽不良・発芽ムラは浸種不足が原因の可能性があります。
- 水温10℃～15℃で積算水温100℃をめやすに種籾が透きとおった餡色になるよう十分な水分を吸水させましょう。又、特に浸種初期の低水温(10℃以下)は発芽揃いが悪くなりますので注意しましょう。
- 休眠が深いと推定される「コシヒカリBL」と「新之助」については、発芽揃いをよくするため「浸種水温：12℃」「積算水温：120℃」を目安として下さい。
- 水量は籾容量の2倍程度としましょう。(籾1kgに対して水約3.5Lの割合)

5. 催芽

- 催芽は28～30℃の水温で2日間程度行い、ハト胸状態に仕上げましょう。
- 温度が30℃を超えると細菌性病害が発生しやすくなるので注意しましょう。
- 発芽状態を確認しながら芽の伸び過ぎに注意し、ハト胸状態を確認したら催芽を終了しましょう。

6. 播種

○播種量の目安(稚苗)

1箱当たり播種量(g)	
乾もみ	催芽もみ
130～140g	160～170g



播種量のめやす

